



令和2年度広島県高等学校秋季バスケットボール大会
第73回前項高等学校バスケットボール選手権大会 広島県予選

個人トータル表

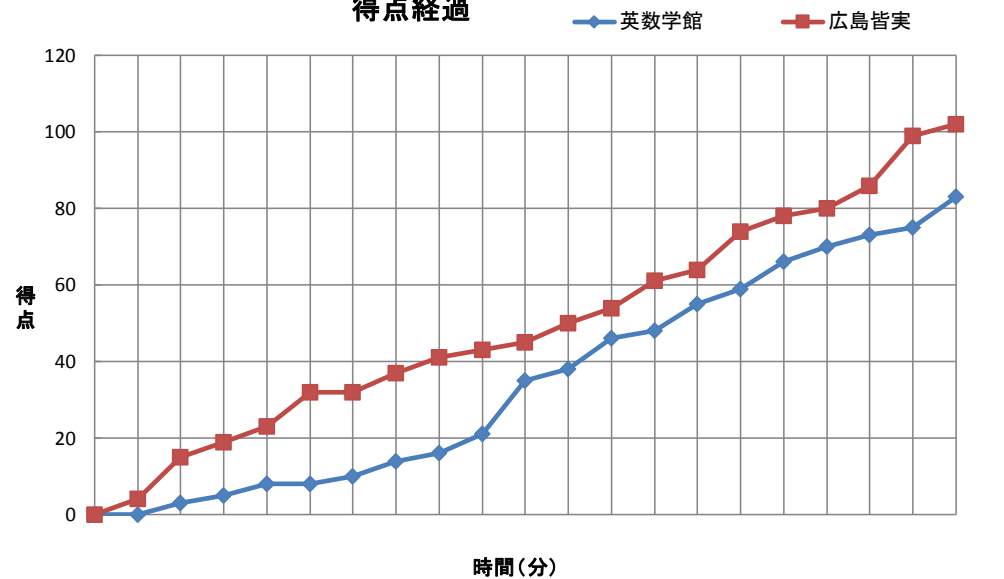
男子		令和2年10月25日	13:00 開始
決勝		コジマホールディングス中区スポーツセンター	0

英数学館	83	<table border="1"> <tr><td>8</td><td>1st</td><td>32</td></tr> <tr><td>27</td><td>2nd</td><td>13</td></tr> <tr><td>24</td><td>3rd</td><td>29</td></tr> <tr><td>24</td><td>4th</td><td>28</td></tr> </table>	8	1st	32	27	2nd	13	24	3rd	29	24	4th	28	102	◎ 広島皆実
8	1st	32														
27	2nd	13														
24	3rd	29														
24	4th	28														
(広島県)				(広島県)												

番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	杉原 涼太	14	0	7	0	4	4	大穂 礼里	0	0	0	0	0
* 5	青山 祐己	37	2	11	9	4	* 5	神足 駿斗	17	1	3	8	2
6	桑田 翼	7	2	0	1	2	6	米井 水土	0	0	0	0	1
* 7	岡本 麗司	0	0	0	0	1	7	藤原 壮大	2	0	1	0	1
* 8	野宮 脩由	8	1	2	1	3	* 8	大福谷 和馬	29	0	10	9	1
* 9	西名 春樹	0	0	0	0	2	9	岡 真人	-	-	-	-	-
10	中野 優真	2	0	0	2	1	* 10	都築 勇太	11	0	5	1	5
11	森山 来夢	-	-	-	-	-	11	高山 涼介	-	-	-	-	-
12	荒木 真央	-	-	-	-	-	* 12	定森 琉汰	21	0	7	7	3
13	住吉 然	-	-	-	-	-	13	南 政 訝	-	-	-	-	-
14	岩田 開知	10	2	2	0	3	14	梶原 琉夏	0	0	0	0	0
15	大菊 悠仁	-	-	-	-	-	15	篠原 広照	-	-	-	-	-
16	佐竹 由成	-	-	-	-	-	16	中水 元基	0	0	0	0	0
17	松本 大志	-	-	-	-	-	* 17	梶谷 崇太	22	4	5	0	3
18	吉崎 諒翔	5	1	1	0	4	18	出野 龍太郎	0	0	0	0	1
コーチ	辻 宗明					0	コーチ	藤井 貴康					0
Aコーチ	鈴木 堅剛						Aコーチ	東 昌隆					
合計		83	7	22	13	20	合計		102	1	26	25	13

主審: 市川雄介
副審: 望月公平
副審: 熊本裕一朗

得点経過



CTO	1・2P	3・4P		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	4:49	19:26	36:21	39:33	:	:	:
TeamB	14:30	18:09	:	:	:	:	:

【戦評】

モルテンカップ男子 インターハイが中止となり、新人戦以来の大会となる。その中国新人において、広島瀬戸内が優勝を飾り、広島県男子の全国大会出場枠は2枠となった。その功績はとてつもなく大きい。そんな中決勝に進み出場枠をものにしたのは、準決勝で接戦の末瀬戸内を破った英数学館と県立学校でありながら全国大会常連の広島皆実となった。

1Q: スタートは、英数学館#4#5#6#7#9、広島皆実#5#8#10#12#17
両チーム共にマンツーマンでスタート。皆実は#8のゴール下ショットで先制すると、ハードなディフェンスから得意の速い展開に持ち込み、11対0とする。対する英数は、皆実のディフェンスに苦しみながらも#5と#14の3Pなどで得点する。英数はディフェンスを3-2ゾーンにしてリズムを変えようとするも、皆実はスピードとパワーと運動量で一気にたたみ掛け、8対32皆実リードで1Q終了。

2Q: 皆実はメンバーチェンジを繰り返し、フレッシュな選手を起用することで点差を広げようとするも、英数の3-2ゾーンに対して少しずつリズムが狂い始める。英数はゲームをペースダウンさせることに成功すると、リバウンドからの良い流れでオフェンスを組み立て、#5のバスケットカウントや#6の3P、#4の粘り強い得点で点差を縮める。残り30秒で英数は、タイムアウトをとる。その後、セットプレーから#18が得点すると、終了間際にも#18が3Pを決めて、35対45と英数が点差を縮めて前半終了。

3Q: 2Qとは打って変わって、点の取り合いとなる。英数は#5と#6の3Pや#8のバスケットカウントなどで得点する一方、皆実は#17の3Pや#8と#10がゴール下で得点を重ねる。英数のチームファールが増えると、皆実は#5のインサイドを強調し、ペイントエリアを攻めたてる。英数は交代して入った#14が3Pや速攻で得点するも、チームファールが溜まった分だけ劣勢になり、59対74と皆実がリードを広げて3Q終了。

4Q: 英数は再び3-2ゾーンに変える。立ち上がりこそ皆実のミス誘発するも、その後は皆実が厳しいプレッシャーディフェンスから速い展開に持ち込むと、確実に得点を重ねる。英数は厳しい時間帯が続くも#4#5がしぶとく得点し、何とか喰らい付く。終盤になっても運動量を維持するどころか、ペースを上げる皆実は#5#12#8を中心に最後の最後までハードワークし、83対102で皆実が優勝した。

敗れはしたが、オールラウンダーを多く擁しディフェンスで変化を付けながら、最後の最後まで粘り強く戦った英数の戦いは素晴らしかった。全国大会でも県大会準決勝・決勝のような戦いを期待したい。優勝した皆実には、全国の舞台でもハードなディフェンスから速く強いオフェンスで、旋風を巻き起こしてもらいたい。

戦評: 横田 学

記録: 広島なぎさ